



# せいらんそう

人会誌号  
社会福祉法香報  
芳会第38号  
2018年1月発行



青嵐荘特別養護老人ホーム、「秋祭り」の様子♪（P4掲載）

## もくじ **CONTENTS**

### 実践を通した気付きと学び

～福祉のこれからと私達の使命～

- ・”福祉発“の地域づくりを考える
  - ・地域共生社会の実現に向けて
  - ・外国人雇用の展望と課題
- ～新たなステップへ～
- …2  
…3

### 高齢福祉施設トピックス

…4

### より良い福祉サービスを

目指して

…5

- |           |    |
|-----------|----|
| 芳香会活動報告   | …6 |
| 芳香会スケジュール | …6 |
| 編集後記      | …6 |



2016年4月14日に発生した熊本地震において被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げるとともに、当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

## 実践を通した気付きと学び

### 「福祉のこれからと私達の使命」

社会福祉法人芳香会では、外部講師をお招きした講演会の開催や他法人と共に企画する研修会への参加などに積極的に取り組んでおります。今号では秋季から冬季にかけて開催された三つの講演会・研修会についてご紹介します。

### “福祉発”の地域づくりを考える



平成二十九年十一月十八日、当法人主催による「第四回 地域づくり講演会」を結

城市民情報センターにて開催しました。地域住民を始め、福祉事業所や地元企業など、地域づくりに関心のある百十一名の皆様にご参加いただきました。

第一部では、秋田県藤里町社会福祉協議会の菊池まゆみ様をお招きし、「福祉で町づくりから地方創生を考えた取り組み」と題し、福祉の立場からいただきました。人口三、五〇〇人の藤里町で行われた弱者でも地方創生の担い手になれる、町民だれもが生涯現役を目指せる町づくりには、次世代の担い手づくりとして、引きこもり支援（就労支援）がありました。福祉活動の拠点を整え、情報や体験の場を提供する。地元の特産品を生かした仕事を生み出し、更には地元産業の担い手へとつなげていく取り組みです。人づくり、仕事づくり、若者支援、産業支援のサイクルをシステム化したものであり、

福祉の範囲にとらわれず、広い視野を持つことが地域づくりには必要であることを学びました。

第二部では、結城市七五三場にある青嵐荘特別養護老人ホームの富張事務係長による『見守りビーコン導入について』の実践報告でした。見守りビーコンは、スマートフォンを活用した認知症の方の捜索システムになります。社会福祉法人が地域の為にできることとして取り組みが始まりました。



二十四時間介護の専門職が滞在している特別養護老人ホームが起点となり、認知症の方や家族の地域生活を支える仕組みづくりです。

使用にあたっては三つの効果が想定されます。一つ目は行方不明者の命を守ること（より多くの方に賛同いただくことで早期発見の可能性が高くなる）。二つ目は家族を中心とした介護者の孤独の緩和につながること（地域に支援や見守りが根付くことで、介護者の心のゆとりにつながる）。三つ目は地域で見守る組織づくりです。参加型として、自分のできる小さな貢献が、地域づくりにつながると考えられます。賛同者をどのように増やしていくなどの課題があるようですが、一つひとつ解決しながら、実現に向け取り組みが進められています。

生労働省政策企画官の野崎氏



より『「地域共生社会」の背景とねらい』地域共生社会づくりと社会福祉法人への期待』があ

りました。社会がこれまでの右肩上がりから少子高齢化および人口減少社会へと構造的に変化している。その中で、これまでと同じやり方、例えば縦割りでは対応できず、また福祉領域だけではこの少子高齢化・人口減少社会を乗り越えることは難しい。乗り越えていくために「地域共生社会」という概念が必要である。つまり、例えば人手不足である産業界も含めて考える視点のように、すべての社会・経済活動の基盤としての地域を踏まえた課題を考えていく視

## 地域共生社会の実現に向けて

【 結城市地域包括支援センター 南分室  
社会福祉士 木立雅人】

点と実践が必要になるということです。現在、医療福祉分野では多職種連携が当たり前となりつつあります。しかし、それだけでは足りず、分野を横断した視点や実践が必要なのだと理解しました。社会が変化しているということはそれぞれの分野に課題があり、かつ解決困難な状態となっているのだと思いました。将来の地域の担い手の育成の部分では「この地域に何を残したいか?」と問われ、現在の実践者にとって重い言葉であると感じました。



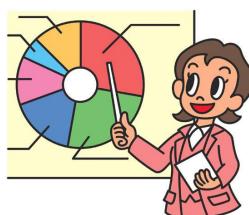
各法人の実践報告では、

各々が持つ強みや地域との関係を活かし、課題の把握と解決に向けた実践が報告されました。情報共有としてICTの導入を進めた事例では、平成十五年から企業とのプロ

ジェクトとして取り組み、現在は在宅医療介護連携のツールとなつて地域をリードしていました。また、学習サポート事業の取り組み報告では、事業の評価として子どもたちの声を拾い上げ、それを踏まえて地域の中での学習支援の実施や事業対象外となつた後も取り組みを継続していました。

報告のあつた法人に共通していたのは、二一度を捉え、きちんと実践に対して評価を行い、次に繋げていく。制度にとらわれず、目の前の困りごとや課題を抱えている人に向き合つているということでした。今後の当法人の取り組みに活かしていきたいと思います。

【 結城市地域包括支援センター 南分室  
分室長 野村幸代】



## 外国人雇用の展望と課題 ～新たなステップへ～

平成二十九年十一月二十七日に、つくば市に於いて茨城県EPA（経済連携協定）介護福祉士受入施設連絡協議会主催による勉強会が開催されました。

今回の協議会では「新」技能実習制度が施行されたことを踏まえ、「介護分野の外国人就労者、あなたなら誰を選ぶ?」をテーマとし、茨城県内の福祉施設から約六十名にご参加いただきました。



まず、基調講話として連絡協議会代表幹事である宇留野理事長から『EPA・留学生そして技能実習生をどう活用するか』との題目で、それぞれの働き方への期待とその課題について、当法人の受け入れ状況を交えつつ発表しました。続いて、話題提供として青嵐荘特別養護老人ホームの富張事務係長から『EP

A・技能実習生・留学生を探用するにはいくらかかるのか』と題し、それぞれの制度の費用面とリスクについて比較検討しながら説明を行いました。

後半は外部講師のお二名からご講演を頂きました。初めに、株式会社メディアパス取締役事業本部長の小田弘様より『外国人就労者の受け入れのために法人・施設が特に注意しなければならないこと』と題し、新しい技能実習制度とその関係機関、受け入れ側の留意点等をご講話いただきました。続いて、学校法人アリス国際学園理事長の竹澤敦子様より『留学生が即戦力介

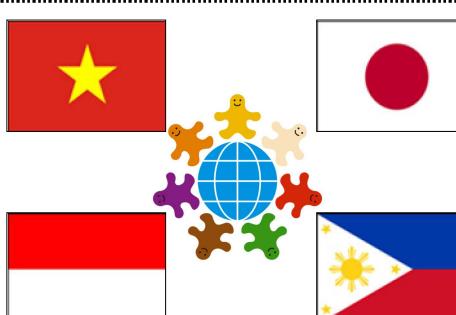
護人材に』と題し、アリス学園における介護福祉士候補留学生の育成について実践を交えながらご講話いただきました。

平成二十年から開始されたEPA制度について、現在まで全国で約四・七〇〇名の受け入れがあり、茨城県では十六名（内訳・インドネシアから九名、フイリピンから六十名、ベトナムから七名）の介護福祉士候補生を受け入れました。受け入れのためには、それぞれの国の特徴を理解することが重要で、受け入れの事前準備のみではなく、受け入れ後も継続して努力、工夫する必要があります。今回の勉強会は県内の福祉関係者にとって、外国人との協働を考える一助となつたのではないか

と思います。介護の人材不足が叫ばれる昨今、その介護人材として外国人に期待が高まっています。特に団塊の世代が後期高齢者となる二〇二五年を見越して、私たち受け入れ側は外国人労働者の受け入れの「目的」と「意義」を

今一度明確にする必要があります。そして、各種制度の特性や協働する国の特徴を十分に理解し、介護の質を担保しながら外国人就労者と良好な関係性が築けるよう、地道な活動を継続してまいります。

【 青嵐荘ケア・アシスタンス  
生活課係長 加藤めぐみ】



# 高齢福祉施設トピックス

## 「老人クラブとの交流会」実施！



青嵐荘ケア・アシスタンス

スでは、平成二十九年十一月二十二日（水）に、『老人クラブとの交流会』を実施しました。この交流会は平成二十一年度から始まり、通算二十三回目の実施となります。今回は、施設近隣の上大野親愛クラブと稻宮オレンジクラブより十六名の方にご参加いただきました。

交流会では、施設のリハビリスタッフが毎回「体力測定」を実施し、参加者自身が身体能力を分かりやすく把握できる内容のもので取り組んでいます。参加者の中には、複数回参加している元気な姿に、参加している職員一同驚かされています。

また、今回の交流会では「ふれあい囲碁」を実施しました。ルール説明を兼ねた団体戦では大いに盛り上がり、予定時間をオーバーしてしまいましたが、皆さん楽しいひと時を過ごして頂くことが出来た様子でした。

今後も、「地域とともに」をモットーに、地域の方々に必要とされる、地域に根付いた施設運営を目指していきたいと思います。



# 二〇一七年、忘年会開催！

青嵐荘養護老人ホーム



青嵐荘養護老人ホームで

は、忘年会を開催しました。「今年もお世話になりました。来年もよろしくお願ひします。乾杯！」利用者代表の元気な乾杯の発声を皮切りにスタート。久しぶりのビールを飲みながら、リクエストの多かった刺身盛り合わせに舌鼓を打つ。いつも以上のいい笑顔で楽しそうに談笑する楽しいひと時。仮装をした司会の職員も一生懸命に場を盛り上げます。

気分も盛り上がってきたところでカラオケ大会へ。普段、歌うところをみたことがない寡黙な方もお酒の力を借りたおかげか1曲歌声を披露され、高得点に歓声があがります。

また舞踊教室で聞きなれているズンドコ節を披露された歌い手の周りには自然と女性ダンサーが集合。マラカスを振りながら練り歩き、会場が一体となって大いに盛り上りました。

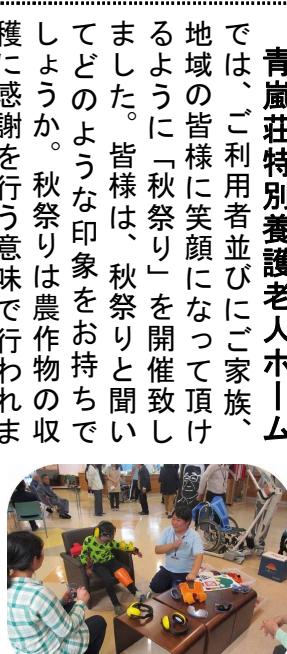
普段、利用者の皆さんにはできることは自分で行っていただき、リサイクル作業や裁縫、野菜栽培などの活動を日課として取り組みながら日常生活を送っています。その中に行事という非日常の機会を設けることは生活をいきましたが、皆さん楽しいひと時を過ごして頂くことが出来た様子でした。

当ホームの存在意義は、ご利用者とご家族はもちろんのこと、職員一人一人の笑顔を作り出し、同時にその笑顔を地域に広げることであると考えています。そのため、今後も秋祭りを開催し、地域での暮らしが少しでも明るく楽しいものにしたいと考えております。秋祭りは「誰もが来荘でき、好きな時間に来て好きな時間に帰る」というコンセプトで行っていますの



青嵐荘特別養護老人ホーム

青嵐荘特別養護老人ホーム



は、ご利用者並びにご家族、地域の皆さんに笑顔になつて頂けよう。秋祭りを開催致しました。皆様は、秋祭りと聞い

てどのような印象をお持ちでしょうか。秋祭りは農作物の収穫に感謝を行う意味で行われます。私達の収穫は皆様の「笑顔」とテーマを決めました。日頃の感謝を皆様の笑顔に変えて、お伝えしたいと強く考え、秋祭りを実施致しました。内容については、誰もが楽しんで頂けるような遊戯店や模擬店、催し物を行いました。



また写真にあるよう

な、くぐれば幸せが訪れる鳥居を通り、その奥には人々が笑顔になるお地蔵様「青嵐童子」を設置しました。青嵐童子は今もホームに展示しております。

# より良い福祉サービスを目指して

芳香会では、新しく「ふくし」に携る方から、何年、何十年と「福祉」に従事し、芳香会と共に歩み続けている職員に向けて様々な取り組みを実施しています。今号ではその一部を皆さんにご紹介致します。

## 内定者親睦会を実施しました



平成三十年一月六日（土）平成三十年度入職予定の内定者親睦会を実施致しました。内定者は七名と少數なこともあり、宇

留野理事長からのご提案のもと、より親睦を深められるよう、様々なプログラムを企画、

実施しました。

当日、理事長からの挨拶から始まり、少し緊張している様子も見られましたが、真剣に話に耳を傾けていたる姿勢に四月から芳香会職員として新たなスタートを切る決意が垣間見えました。

午前の部では、この日初めて顔を合わせたメンバーとの自己紹介を始め、福祉の学習として、みのりホームでのご利用者の生活の様子を収録したDVDを視聴して頂き、感想を書いて頂きました。障害をもちながらも地域で暮らす方々がどのような環境でどんな生活を送っているのか。その生活の一部を知り、また感じたことを互いに共有することで、地域生活支援の理解を深めるきっかけとなっていたらと思います。また昼食においては、管理栄養士の先輩職員に協力を得て、「お好み焼きパーティー」を

実施しました。コミュニケーションを取りながら、共に一つの物事を進めて行くという過程を体験することで、より結束を高めることができます。

午後の部では、「福祉機器体験」、「ふれあい囲碁」を実施。愛らしいコミュニケーションロボットの紹介に加え、腰痛予防の大きな支えとなつていい「マッスルスースー」、「リフト」を先輩職員の熱心な説明のもと、体験して頂きました。次いで、芳香会お馴染み「ふれあい囲碁」を体験。囲碁を通して、更に交流を深められたように感じます。



三十年度の内定者は七名。

少数であるからこそ、お互い支えられるような関係になつて貰えたら、そして、今回の親睦会がそのきっかけの一助になれていたらと担当者がして切に思います。新年度から芳香会職員として大いに活躍されることを期待しています。

【法人本部事務局 谷口事務員】

## 永年勤続者記念品・資格取得者報奨金授与式



平成二十九年十二月十九日（火）、「永年勤続者記念品・資格取得者報奨金授与式」を実施致しました。

今年度の授与式対象者は、永年勤続者記念品・資格取得者が九名、計四十二名でした。今後も芳香会の一人として、大いに活躍されることを願っています。

【結城市地域包括支援センター南分室

木立社会福祉士

## 代表職員からひと言

記念授与式において、資格

取得奨励金を理事長より授与された時、喜びは勿論、身の引き締まる思いを強く感じました。



「資格取得者記念撮影♪」

私は路のとう舎に生活支援員として入職し、昨年看護師に職種変更いたしました。介護の知識は看護師としても生かせると考え、今回介護福祉士を受験し、資格を取得することが出来ました。今回の資格取得を機に今までの自分を振り返り専門性を高めていくきっかけとし、利用者様の生活の質の向上に繋げられるようにしていきたいと思います。

【青嵐荘路のとう舎 久野准看護師】

今回の永年勤続記念品授与者は、三十三名でした。勤続年数では三十年が一名、二十五年が二名、二十年が二名、十五年が十一名、十年が十七名でした。

私自身、勤続二十年が経過しました。この間、様々な制度の改革が行われてきました。新たなものを理解し、現場で実践していくことで、一つひとつが良い経験になりました。勉強になりました。

今後も社会の変化についていくと共に、これまでに得てきた知見を次の世代に伝えていくよう、日々精進したいと思います。



「永年勤続者記念撮影♪」

# 芳香会活動報告

## リサイクル活動ラボ開始



芳香会が取り組んでいるリサイクル活動については、この会報でも何度か掲載させて頂きました。今号では、今年九月より開始した「古河中央ロータリークラブ」におけるリサイクル資源の回収についてご紹介致します。



多くの方の賛同と協力を得ながら、細く長く継続して参りたいと思います。

【青嵐荘療護園

高橋副主任相談支援員】

芳香会が取り組んでいるリサイクル活動については、この会報でも何度か掲載させて頂きました。今号では、今年九月より開始した「古河中央ロータリークラブ」におけるリサイクル資源の回収についてご紹介致します。

リサイクル活動で得られた収益は、主に地域の花壇に植栽を行う際の原資とする事で循環型のサイクルを形成しております。

この度、宇留野理事長から同クラブに対して「社会奉仕の一環としてリサイクル資源の提供にご協力頂けないか」との提案を行い、間もなく例会実施会場の駐車場へ各種資源を持ち込んで頂く方向で詳細が決定しました。

回収作業は青嵐荘療護園と青嵐荘路のどう舍が交代で実施しております。青嵐荘路のどう舍においてはご利用者も現地に同行し、職員と共に積込み作業を担当します。多くの方との触れ合いは、ご利用者の社会参加重ねるごとに増えており、次年度の地域貢献活動に弾みがつきます。

リサイクル活動も、少しずつ形を変えながら本当に息の長い取り組みとなりました。今後も



## 芳香会スケジュール

平成三十年一月期～三月期	
一月六日	内定者親睦会
一月十九日	福利厚生企画
一月二十三日	苦情受付体制委員会主催 法人内研修Ⅱ
三月一日	平成二十九年度最終補正予算 平成三十年度予算及び事業活動計画 法人内ヒアリング 合同研修会
三月八日	お楽しみくじ抽選会
三月十九日	平成二十年度第二回 芳香会スケジュール
三月三十日	芳香会スケジュール
三月二十一日	芳香会スケジュール
三月二十四日	芳香会スケジュール
三月二十九日	芳香会スケジュール
三月下旬	理事会
三月	評議員会
平成三十年度入社式及び 春季高校生インターンシップ	春季高校生インターンシップ

### 芳香会 求人情報

平成三十年度新卒及び既卒者 募集条件  
平成三十年度新卒及び既卒者 募集条件

芳香会では、平成三十年四月採用職員を募集中です。  
新たな挑戦、夢を全力でサポートします！！  
是非お申込をお待ちしております。

- ※募集職種※  
介護職・相談員・正看護師
- ※勤務地※  
古河市 上大野、尾崎  
結城市 七五三場
- ※応募条件※  
まずは施設見学会にご参加下さい。  
見学会・採用試験の日程は、  
芳香会HPをご覧下さい。

【お申込み・お問い合わせ先】  
社会福祉法人芳香会  
法人本部事務局  
ページ下部連絡先まで

## 編集後記

(光) 先日、二十三年目になる施設建物の外壁・屋根塗装修理工事の進捗状況確認の立ち合いをした。汚れ、ひび割れ等痛みが激しく、定期的な管理と美化の必要性を感じた。今後も輪番に各施設建物維持のための改修や設備更新を計画立案が必要だ。悩みは尽きない

(絶) 晩秋から初冬にかけて体調不良のオノンパレードでした。皆様には本当に申し訳なく思って共に、毎日健康で過ごせる事のありがたみを再認識しました。感染症の本番はこれからです。気持ちを引き締めて毎日を過ごしたいと思います。(賢) 新しい年を迎え、内定者親睦会を終えました。今年度も残り三ヶ月。新たな気持ちで新入職員を迎えるよう、一生懸命、準備を進めて参りたいと思います。



## 社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。